

今後の予定

第 84 回 7 月 20 日 (木) 13 : 00

『気骨の自由主義者、石橋湛山回想』

浅野純次氏 石橋湛山記念財団理事 経済倶楽部理事
元東洋経済新報社社長

石橋湛山は「徹底した自由主義者」であり、筋金入りのジャーナリスト・思想家・政治家であった。

大正時代から戦前・戦中にかけて『東洋経済新報』誌を中心に、政治、外交、財政、金融、社会、文化の各分野にわたる幅広い言論活動を展開した。戦前の植民地政策を批判する「小アジア主義」において、湛山の愛国心は、強張った民族主義や武張った国粹主義の対極にあった。戦後に政界に転身し、大蔵大臣、通商産業大臣を歴任、1956 年には第 55 代内閣総理大臣となった。惜しくも病に倒れ、総理大臣在任期間は 65 日に終わる。

第 85 回 8 月 17 日 (木) 13 : 00

『昭和史辺々・近代史と私』

伊藤 隆氏 近現代政治史研究家 東京大学名誉教授

講師は、日本近代史、特に昭和戦前期政治史研究の重鎮であり、実証研究重視の手法を採り、多くの近代日本一次史料の発掘公刊を精力的に行った。天皇制ファシズム論の支持層を批判し、後退させる等、その後の日本近代史研究の発展に寄与している。毎年 8 月は終戦記念日時の特別講演とするが、今回は氏の昭和史研究の歩みを振り返る。終戦記念日に相応しい講演となろう。

第 86 回 9 月 21 日(木) 13 : 00

『血の通った経済学を求めて』

鈴木興太郎氏 一橋大学名誉教授

早稲田大学栄誉フェロー・名誉教授 日本学士院会員

元日本経済学会会長 日本学術会議副会長

一橋大学では荒憲治郎ゼミナールに所属。大学 3 年の夏にケネス・アロー『社会的選択と個人的評価』を読了し衝撃を受ける。その後、厚生経済学及び社会的選択理論の研究者になることを決意した。日本経済学会会長を歴任。日本学士院賞受賞、紫綬褒章受章。これまで歩んできた厚生経済学を身近な問題として分かり易く説く。